まえがき

理事長　吉 田 雅 文

第２次世界大戦の結果、日本列島は約８割の諸都市が焼土と化し、その上外地より 800 万人を超える軍人および一般邦人の多数の帰国者とが重なり、日本人の衣食住は極度に困窮し、「1 千万人餓死の危機」の噂が飛び交う程の大混乱の時代となった。この大混乱の時代を経て、漸く死の恐怖から解放されたのは昭和 25 年（1950 年）半ばの朝鮮動乱以降である。かくして奇跡的な戦後 10 年の復興期を経て、日本経済は刮目すべき隆盛の時代へと突入した。即ちその後の神武景気（1954 年より 31 ヶ月）、岩戸景気（1958 年より 42 ヶ月）、オリンピック景気（1962 年より約 2 年）、更にはいざなぎ景気（1965 年より 57 ヶ月）を経て列島改造ブーム（1971 年より約 2 年）へと驀進を続けた。この間の経済成長は実質 9.0%と驚異的な発展を示し、それは 1971 年の世界的な石油ショックまで続いた。以上のような時代を背景として、当財団は昭和 41 年（1966 年）12 月に創立されたのであるが、食の欲求が一応充足されるや、国民の関心は住居の獲得へとまっしぐらに進んだ。

このように国民の熱望している住宅の確保について、如何にしてこれに応えるかは歴代の政枢にとり最重要課題となった。

当財団はこの社会的要請に応えるべく、昭和 42 年より伐採を開始し、平成 10 年までの 31 年間に約 5 万㎥の素材を市場に提供して、木材需要に対応してきた。その立木収入は 12 億円に達した。更にこの間において緑の少年団に対する表彰行事をはじめとして各種公益事業を積極的に実施し、その額は実に 3 億 8 千万円に達している。今日、茲に顧みて歴代の理事長をはじめ関係各位に改めて深く感謝したい。

一方、このような財団活動を支えてきた経済条件は昭和 30 年代後半の木材輸入自由化とそれに伴う関税の撤廃、更には円の変動相場制への移行（昭和 46 年）等により大きな影響を受け、戦後右肩上がりに上昇を続けてきた木材価格は昭和 55 年をピークに急激に低落しはじめた。更にその 15 年後（平成 7 年）には山元

立木価格はピーク時の半値に下落した。その後も材価の低落はとどまる処を知らず、今や山元立木価格は昭和 27 年（1952 年）当時の水準（2,600 円/㎥　一般財団法人日本不動産研究所　山林素地及び山元立木価格調―平成 25 年 3 月末現在―(2013)）という危機的状況にある。このような状況をふまえ、財団は三重、和歌山の山林を売却し融資受理金の返済に充当することを決議し、平成 24 年 1 月 11 日、日本政策公庫よりの融資受理金 1 億 4700 万円の返済を完了した。

このように当面の財団運営は誠に厳しいが、地球環境保全が世界的問題となっており、緑豊かな山林を守り育てていくことが益々重要となるだけに、全力をつくしてこの難局を乗りきって行きたいものである。

平成２９年７月６日

理事長　吉　田　雅　文